



父から聞いた話ですが、当時は東京の役者がよく大阪へ修業に来たものだからです。「今度、東京から誰々が来ませ」という話が出る。と、大阪の偉い役者は、「あ、そうか、芸まで教えることは無理やろうが、せめて訛だけはとつて帰してやろうか」といつていたそうです。芸は大阪が本場という強い意識があったのですね。

【十三代目片岡仁左衛門『とうざいとうざい』(昭和58年)】